

による西区役所の清掃業務については、希望者の少なさや現場清掃員確保の難しさなどにより、30年度末をもって終了することとなりました。

また、年度内に3名の退所があり、減収となっており、利用者の増に向けて取り組んでいます。

29年度から持ち越しになっていた開所30周年の記念行事としては、毎年夏に行っている《納涼大会》を記念大会とし、地域で福祉活動等に従事されている方々を多数お招きし、盛大な催しとなりました。

#### 【港育成園】

港育成園は、利用定員40名でサービスを提供しています。30年度内に2名の新規利用がありました。実利用実績が39.3人/日となり、より安定した経営状況で園の運営を実施できました。

その一方で、人員配置基準1:3に対応するため、安定的な人員の確保が必要となり、非常勤スタッフの採用を積極的に進め、重度の方への支援の質を担保することに努めました。今後もサービスの質の向上のため、スタッフの育成にも力を注ぎます。

改修後、施設内の清潔保持や園庭の樹木の大幅な剪定などを施し、港育成園施設内外の環境保持を進め、利用者の方々や事業所に関わる方々に快適に過ごしていただけるようになっていきます。一方でスタッフの労働衛生環境をよくするため、重い荷物を移動するための設備を整備し、労働災害が起りにくい環境を整えました。

今後は整理整頓に努め、衛生状態を向上させ、より快適な環境を提供していけるよう努めていきます。

#### 【港第二育成園】

港第二育成園では、利用者の様々な形態の『働きたい』というニーズに応えるべく、事業所内での作業の充実、工賃の向上にとどまらず、事業所外実習、企業内体験実習支援の充実に努めました。

また、余暇活動の一環として第4日曜日を休日開所日とし、サークル活動(パン作り・軽スポーツ)を行ってまいりました。加えて29年度より作業工賃の向上、利用率向上のため、土曜日を作業に特化した取り組みとして年8回開所しました。さらには従来の日課とは別に支援学校卒業後に在宅になられた方、企業就労からリタイアされた方の相談、見学、体験実習を積極的に受け入れ、短時間日課や週3回の通所契約など従来の週5回、9時から16時の日課にこだわらず、個人に合わせたサービス提供時間、利用日数を提案し毎日通所することへの前段階としてリハビリ通所等

の柔軟な日課の作成、提案を行いました。

これらの支援を円滑に行い、安定した運営ができるよう利用者の定員充足に向け、支援学校等との連携、見学会、体験実習等の啓発活動に努めました。

#### 【ワークスいけじま】

ワークスいけじまは、30年度当初、利用者17名でスタートしました。年度内に1名がA型事業所に移行し、新規で2名(うち1名は週3回の利用)が利用を開始され、年度末の利用者数は18名です。利用者の平均年齢は52.9歳で、最年少が44歳、最年長は69歳で、利用者のうち単身世帯が9名、グループホームが4名、ご家族と同居の方が5名です。ご家族と同居の方についても殆どが一人親で高齢のため、家庭に期待できる支援力は脆弱となっています。

また、年々高齢化が進んでおり、今後は徐々に利用が難しくなる利用者が出てくるものと思われませんが、関係機関より一定数の新規利用の相談もありました。

この為、今後安定的に通所を続けて頂くためにはグループホーム・相談支援事業所・居宅介護事業所・訪問看護事業所・あんしんサポート・区役所などとの日常的な連携が不可欠となっており、関係機関との連携に努めました。

ハード面では築20年を過ぎ、施設、設備に老朽化が目立つようになってきていますが、今年度は今後の事業展開を検討中のため、大規模な改修は見合わせました。しかし、エアコン、トイレなど早急な対応を要する箇所につきましては、更新、改修を実施することとしました。

#### 【メープル】

メープルでは、法人理念である「障がいのある人が安心して心豊かに過ごせるように」を基に、地域に根ざす生活を支援しています。

昨年度は3名の方が当事業所を退所し単身生活を始められましたが、今年度は1名が他法人のグループホームに移行されるにとどまりました。ここ数年の取り組みで、自分らしい暮らし方を共に考え支援した結果、メープル以外での生活を望まれる方全員が新しい暮らしの場を見つけられたことになりました。利用者の退所により生じていた空室は、ホームを1か所廃止することで解消しました。

また、高齢、重度化への対応は以前からの課題でしたが、今年度は、高血圧に起因する腎臓疾患で、短期間ではありましたが人工透析治療を受けた方がおられました。幸い予後は良好ですが、大量の服薬管理や